

素晴らしいビジネス書「元気の出る中小企業経営」を紹介します

(社)日本技術士会茨城県技術士会
技術士(総合技術監理、情報工学) 井上 春樹

1. はじめに

本連載は今回で最終回です。今回はこの連載の集大成として、皆様に即効で役に立つビジネス書を紹介したいとおもいます。その本の名前はズバリ「元気の出る中小企業経営 / 永田一良他」で、ちょうど今月、つまり平成15年3月に茨城新聞社から発売されます。

さて、最近、厳しいビジネス状況に便乗して、「こうすれば絶対儲かる!」「借りた金を返さない方法」「.....経営革命」「努力しないで利益を出す方法」などといったタイトルで、読者が努力もせずに簡単に経営がうまくいく様なイメージを与える本が売られています。しかし、そういった本は正直なところ、読み終わってがっかりするだけでなく不快な読後感が残るものが多いのが実状です。



写真 1

しかしこのビジネス書は違います。恐らく、茨城県の企業経営者向きに書かれた初めてのものであり、その内容は「茨城県に立地する企業の優位性とITを有効に活用することが如何に経営に重要なことなのか」をダイレクトに皆様に問いかけ、生き残り、そして企業を大きく発展させるためにはどうしたら良いか、という情報が満載されている快心の書だと思えます。

2. どうして出版されることになったのでしょうか?

図1に本書の目次を抜粋し、概略をコメントしました。ここでは本の内容の紹介に先立ち、出版に至る経緯と執筆者に関して説明したいとおもいます。

2.1 出版の経緯

茨城県の中小企業は次の様な特徴を持っています。

- (1) 大手製造業と深い関わりを持っている中小製造企業が多い
- (2) 世界的に著名な高度研究開発エリアである「つくば地区」が近くにある為ハイテク技術を有する中小企業が多い
- (3) 原子力関連施設が多い為、原子力関係の企業が多い

図1 目次と内容の要約

| 元気の出る中小企業経営 | |
|-------------------------------------|---------------------------------|
| 第1章 中小企業は、これを変えれば危機を乗り越えられる! | |
| 1.1 経営の核心に迫る | 激動の2000年、新しい経営の核心を説明 |
| 1.2 大企業の花巻 | 大企業の本拠地と中小企業へのしほはせつからくりを解説 |
| 1.3 前編革新が伝説を | 新しい企業形態への挑戦への物語を説明 |
| 1.4 逆転発想の経営 | 企業間の協同から競争まで一歩一歩の転換を説く |
| 1.5 攻めの経営対策 | 業績改善のための実践的・新しい経営を説明 |
| 1.6 社長大守院 | マネージャーの経験が社長と決り兼ねるを説明 |
| 第2章 カネをかけなくても「IT経営」はできる! | |
| 2.1 元気の出るIT導入! | IT導入は自社にとってITに実現できることを解説 |
| 2.2 協定奉行は凄! | IT導入以上のメリットを最大限に中小企業に生かすシステムを紹介 |
| 2.3 社員はITで育てる | 新しい社員教育にはITが効果的 |
| 2.4 IT専門家を徹底活用 | IT活用は専門家に任せようが第一 |
| 2.5 本日は安いITツール! | 高品質なものは買わずに安いものを選ぶ |
| 2.6 CAD/CAMは簡単! | これからの製造業に必須な内容 |
| 2.7 企業間連携で生き残り! | 同業他社との連携を止め、横の連携を始める |
| 2.8 本家のITはこれ! | おまかせから新にも手付けの経営革新 |
| 第3章 「地域連携」で生き残り! 一親会社からの自立 | |
| 3.1 中小企業と県・自治体は何かうまくいかなかったのか? | |
| 3.2 地域連携の核心を語る! 茨城基盤工芸協会の熱い思い! | |
| 知らないと損するおいしい付録 | |
| 付録1 | 中小企業経営に役立つインターネットサイト見解録 |
| 付録2 | 中小企業の地方自治体、ITコーディネーター録 |
| 付録3 | 自立への時間を短縮する資金繰り運営の全て |
| 付録4 | 空くて変に立つ中小企業向け情報システム一覧表 |

これらは、従来は他の県に対する優位さと捉える事もできましたが、近年は逆にそれが「生き残り」を妨げる大きな要因に変質してきています。つまり、大企業とのビジネス上での緊密な連携は、大企業自身の低迷により完全に過去のものになったということです。また、最近の状況の変化で原子力に関する将来的なビジネスは極めて不透明になりつつあります。

この様に、親会社や、国などとの関係だけを考えると、ある日突然路頭に迷う、ということが高い確率で起こり得ることになってきたのです。この様な状況に対応するには、親会社や行政だけに頼ることを止め、まず自身が自立し、企業同志、茨城県、市町村との連携を実現することが非常に重要になります。この様な観点から、本誌の2002年4月号～2003年3月号に「TODAY ビジネスにおける中小企業経営のエッセンス」とこの「中小企業のためのIT実践講座」が連載されました。本書はこれを再編集し、さらに茨城の企業の方々に役に立つ情報をできるだけ集めたものなのです。

2.2 誰が書いているのか？：茨城県の英知・経験を結集！

そういう訳で、この本の著者は茨城県在住、あるいは日常的に茨城県の産業流通に深くかかわっている経営者、茨城県技術士会会員、ITコーディネータ茨城会員、茨城県商工労働部、茨城県IT戦略委員などです。茨城県とは何の関わりも無い無責任な筆者は一人もいません。様々な分野の方々が一生懸命茨城県にある中小企業の経営とそれに有効なIT戦略について書いています。中には読者の方の仕事とは全く関係の無い事や、「これ、おかしいな!？」と思うような記事もあるかもしれません。しかし、大切な事は、茨城県にはこれだけ多くの人材が私達の身近におられ、一緒にビジネスを進めたいと思っている、ということを知る事ではないでしょうか？

驚くべき事ですが、これまで他の都道府県をみても、本屋に並べる事の出来ない本格的な身近なビジネス書は発行されたことはないと思われます。もちろん、企業支援のためのパンフレットや資本金繰りの手引きなどは数多く発行されていますが、それはあくまで手引きであって、本屋さんには並べる事の出来るような内容では無かったのです。

そういう意味では画期的な意味を持つものと言えますが、まだ初めてのものなので、茨城県にいる全ての優秀な人材を網羅しているとはいえません。幸い「2003年度版」となっておりますので、今後も毎年継続して出版されると貴重な茨城県の企業経営の羅針盤になるものかとおもいます。

3. 何が書いてあるのでしょうか？

では、内容を紹介してみることにしましょう。ここではスペースもかぎられていますので、特に面白いところ、役に立つところを中心に紹介します。以下は、私自身の興味のある事柄をベースにしていますので、客観性に欠ける点があることはご容赦下さい。

3.1 面白いところ

(1)1.6 社長大学院

難しいですが、非常に役に立つ内容です。私はこれを読んでいるうちに、如何に自身が経営の基本を知らなかったかを、改めて認識させられました。我が国の、特に製造業の経営者や管理者はいわゆる「理科系」出身者が圧倒的に多いのが実情です。「経営なんてちょっと勉強すれば簡単さ！」と考える方が今でも多いのではないのでしょうか？しかし、ビジ

ネスはもはや従来の「経験、度胸一発」の世界ではなく、科学的な世界に進化してしまったことがよくわかりました。特に「キャッシュフロー経営」については「目からうろこがおちる」ような気がしました。すべての経営者、管理者が読む価値のあるものだと感じました。

(2)1.2 大企業の死角

これを読んで、何故近年の中小経営が厳しくなってしまったのかが良く分かりました。筆者は、「大企業は工場や拠点が立地している地域との連携が全体最適を妨げているので、地域の関連企業を捨てる事が唯一の生き残りだと考えている。従って自立できない中小企業はもう直ぐ淘汰される」と述べています。なんとなく分かっている事でも、この様に明確に説明されると、事態の深刻さが襲ってきました。結局のところ「親会社に大きく依存している企業は今すぐなんとか自立しないと本当に危ない」ということが良く分かりました。

(3)2.2 勘定奉行は凄い！

これを読んで一番びっくりした事は、テレビコマーシャルで有名な「勘定奉行」という「企業経営支援システム」が既に40万社近くに導入されている事を知った事です。日本には数百万の企業が存在しますが、そのうち一定の規模があり実際にビジネスを行っている企業数は100万社程度とのことです。そのうち97%以上が中小企業です。そうすると40万社というのは大変な数字になります。

ここでは茨城県の導入事例がいくつか紹介されていまして、「なるほど！」と思うような成果ばかりです。バブルの頃は、中小企業であっても注文は有り余るくらいありましたので、経営も独自の相当ヘンテコなものでも大きな問題はありませんでした。しかし、注文が極端に減少した現在、独自のヘンテコなKKD（経験、勘、度胸）による経営はもう通用しない、ということが良く分かりました。極端な事をいってしまえば、「ブレードコンピュータ」とこの「勘定奉行」さえ導入すれば、少しの出資で最新の経営に即座に移行できる、と思えてきました。

3.2 超お役立ち情報の紹介

全ての記事、データが多いに役立つものである事は間違いありません。ここでは、その中でも特に役に立つところをピックアップします。

(1)3.2 地域連携の核心を語る！

茨城県商工労働部の滝本部長が直接記事を書かれています。私は「...フォーラム」ですとか「...コンソーシアム」とかは単に仲良しクラブだと思っていました。実際のところこれまでは、そういったものが少なからず存在した事は否定できません。しかし、この記事を読んでいると、私達は如何に地域との連携意識に欠けていたか、ということが良く分かりました。ここでは、「つくば地区」「東海地区」「日立地区」「県南地区」での中小企業や、研究機関の具体的な地域連携と県の支援状況が具体的に述べられています。今すぐにでもこれに参加する事が生き残るだけでなく製品開発、マーケット拡大の鍵であるということを感じました。

(2)知らない損するおいしい付録

ここは、役立ち満載のコーナーです。ここだけでも、この本の定価分はあっという間に回収できる気分。まず、面白かったのが「付録1」の茨城県内の中小企業支援のインター

ネットサイト見聞録です。特に「コラボレートいばらき」は経営に役立つ内容ばかりですね。「付録3」「自立への時間を稼げる資金繰りの全て」とあわせて見ると、つくづく私達は、県とか自治体の支援について無頓着だったのがわかります。特に、新製品の開発や、新ビジネスの立ち上げに対する支援策は半端ではありません。今時、銀行の窓口に行って、汗びっしょりになって新製品の開発計画を説明しても、融資してくれる銀行なんかは稀ではないでしょうか？それに対し、県や自治体では反対にこれを多いに奨励しているのです。経営者が「利益も出ないのに新製品の開発をしている余裕は無い！」なんて言ってる企業は即刻倒産でしょう。売る価値の有る商品があるからビジネスなのであり、色あせ手垢のついたくたびれた商品を手にして「開発している暇は無い」と言っている経営者が経営する会社にお勤めの方は、即刻会社を変えましょう。

しかし、一方で「良いアイデアとやる気はあるのに、銀行は開発費を出してくれない」と嘆いている皆さん、大丈夫です。是非ここを読んで下さい。

(3)筆者プロフィールとITコーディネータ紳士録

16人の著者、30人近くのITコーディネータの得意な分野や経歴が写真入で紹介されています。「この人なら自分の経営を多いにサポートしてくれるはず！」という人が必ず見つかるはずです。

例えば「パソコンとネットワークを導入したけど、よく分からない。でも、専門家に頼むと費用が高いし、運用まで面倒見てくれないし…」などの懸念から「やっぱり導入は止めよう」ということになりがちです。ISOの認定なども同じでしょう。しかし、それは解消できるのです。ここに紹介されている方々は、ほとんどが県や自治体に登録されている専門家です。ですから、費用などは県や自治体が支援してくれる可能性が高いのです。また現在依頼しているコンサルタントの費用でさえも公的に負担してくれる可能性が高いのです。是非活用したいと思いました。

4. おわりに

現代は「IT時代」と喧伝され、一見情報は豊富に提供され、企業や公的機関の柔軟化が進んでいるように見えます。しかし、ほとんどの組織は閉鎖的で、かつ国際性に著しく欠けているのが実態です。

真の「IT時代」に至るには「企業や自治体が有機的に連携する為に情報公開と高速な情報の交換が必要」という切実なニーズの高まりが必要不可欠なのです。ITを導入するのは、それ自体が目的ではなく、地域連携実現などの強いニーズの実現手段なのです。

そう言った観点から考えると、本誌や今回紹介した「本」など古臭くみえるメディアは、実は非常に有効な手段なのです。ですから、毎年新しい「元気の出る中小企業経営」が出版される事を期待したいとおもいます。なお、この本は茨城県内の主要書店で入手できませんが、書店に在庫が無い場合は茨城新聞社に直接お問い合わせ戴ければ入手可能とのことです。

本連載を長い間読んでいただきありがとうございました。